

参加者の皆さんからのアンケートより

社会福祉士をめざして実践に適した学び

本当にわかりやすかったです。納得できました。社会福祉士になるためにいろいろ学びましたが、子どもの視点から見るこのCAPの講座は、私の実践に今一番適した学びでした。

(ボランティア・女性・30代)

子どもの視点に立つからこそ見えてくるもの

「子どもの視点に立つ」ことがなぜ子どもへの暴力防止に必要なのか、当事者の視点に立たなければ見えてこないものがあることがわかった。

(ボランティア・女性・50代)

他者とのふれあい、交流からより理解が深まった

心理学や家族関係の本を読んでいたため、多少の知識はあったつもりでしたが、他の方と話し合いながらすすめられる講座のため、理解が深められました。

(ボランティア・女性・40代)



行政として子どもの視点を軸に持つ

要保護児童対策協議会の事務局として、緊急事例に対応するなか、ややもすると子どもの視点ではなくその相談機関の視点になりがちだったことを認識し、学んだことを今後の日常業務に活かしていきたいと思いました。

(専門職・女性・50代)

事実を伝える一人になりたい

自分も神話(事実ではないのに、事実かのように思われてきたこと)に感わされていた一人でした。事実を伝えられる一人になりたいです。普段あまり身近にない性暴力など、吸収することがとても多かったです。重い話の講義も多く、頭がもうろうとしてしまいましたが、楽しく、お茶やお菓子でリラックスしながら学べました。

(保護者・女性・30代)

子どもへの暴力防止には、おとなの努力が必要

子どもに教えなければと思っていたが、やはり、すべてのおとなが子どもへの暴力を減らす努力が先で、大切なことではないかと感じました。

(専門職・男性・40代)

交流を大切に暴力の予防を

コミュニティの大切さ、つながることの大切さをさらに強く感じました。傍観者であることは加害者が暴力をしやすい社会をつくるのと同じという言葉はとても重いと思います。現在、一次予防の分野で仕事をしていて、コミュニティへの働きかけは大切と思っているので、それを行動に移すことを考えていきたいと思いました。

(専門職・女性・30代)

地域、社会で変えていくムーブメントを!

我々はとても難しい課題を与えられていると感じます。地域、社会で変えていくムーブメントをおこなえばなりませんね。

(保護者・男性・20代)



地域を超えた意見交換や交流を今後も大切に

地域の一員としても、子どものサインを見逃さないように、地域の方たちとつながっていきたくて思いました。様々な立場の方々、他府県の方々意見交換ができてよい機会となりました。

(保護者・女性・20代)

子どものサポーターになる

～子どもへの暴力防止のための基礎講座～

子育て世代のあなた

- *自分の感じていること、思いを話せる場
- *子どもの声を聴くスキルで子どもとのコミュニケーション力アップ
- *仲間づくり
- *子どものサインに気づくための情報

学びあう

分かちあう

専門家または、 専門家をめざすあなた

ボランティアのあなた

- *子ども支援の考え方のフレームを確認できる
- *子どもの権利の置かれている現実を知る
- *課題解決の視野が広がる
- *行政や他団体との協働のきっかけ

- *「子どもの視点」というブレない軸を持つ
- *分野を超えた情報共有(教職員、虐待対応市町村窓口、児童福祉課、児童養護施設職員など)
- *法律の要点をつかむ
- *子どもへの暴力予防の考え方をゲットし、効果的な対策へ

学校から、家庭から、地域から、あらゆる職種・職域から参加するこの講座は、いじめ・虐待・体罰・性暴力など、子どもへのさまざまな暴力に対する地域の防止の力を高めます。

- 受講時間：24時間(3日間)
- 定員：20人～60人
- 受講費用：28,500円(受講費27,000円/消費税込+資料代1,500円)
- 講師：特定非営利活動法人CAPセンター・JAPAN CAPトレーナー

お問合せ・申込先：特定非営利活動法人CAPセンター・JAPAN

〒662-0825 兵庫県西宮市門戸荘17-34 スマイルヴィラ105

TEL 0798-57-4121 FAX 0798-57-4122

E-mail: info@cap-j.net HP: http://www.cap-j.net



[ウェブサイト]



[Facebook]

子どもへの暴力は、当事者である子どもの視点に立つことでみえてきます。3日間の講座を通して、これまでの思い込みや枠組みからはなれ、その視点をひろげてみませんか？

子どもへの暴力防止のための基礎講座

子どもには暴力にあわないで、安全な環境で安心して成長してほしい…。けれども、現実には子どもたちが暴力にあっている厳しい状況があります。子どもが「子どもだから」ということで暴力にあいやすい社会…。その現実を知らなければ、効果的な対応策は見つけれません。

そして、虐待・体罰・いじめ・性暴力などの子どもへのあらゆる暴力は、当事者である子どもの視点に立たなければみえてきません。「子どもへの暴力」に対するこれまでの思い込みや枠組みから離れてみる必要があります。

3日間24時間の集中講座で、学びあい、気づきを持ち、語り合い、つながって、子どもへの様々な暴力に対して、何ができるのかを考えていきます。



意見交換で、
整理したり、
視野を広げたり
・・・

子どもワーク
ショップの
模擬体験の風景



参加者の意見が
講座をドンドン
深めていきます。



充実したテキストが、
集中力をサポートします！



グループワークで
何ができるか
考えます。



これまでに…

保護者、教職員、保育士、幼稚園教諭、保健師、看護師、弁護士、電話相談員、カウンセラー、児童相談所スタッフ、児童養護施設や社会的養護の現場に関わる方、教育関係者、警察関係者、スポーツ少年団など他方面から受講されています。

開催詳細はこちら↓



講座を主催する NPO法人CAPセンター・JAPAN

2001年にNPO法人として認証を受けて以来、子どもの人権が尊重され、子どもへのあらゆる暴力を許さない安全な社会をつくることをめざして活動しています。

地域に子どものサポーターを増やすための「子どもへの暴力防止のための基礎講座」や社会啓発の講演会、専門職研修などを行うと共に、ホームページや通信を使った情報発信、CCJブックレットの発行といった社会発信にも積極的に取り組んでいます。また、各地域で活動しているCAPグループの支援やネットワークの推進を行っています。

障がいのある子どもや社会的養護のもとに暮らす子どもたちをはじめとする子どもへの暴力のない環境づくりに力を入れています。

CAP(キャップ)プログラム

Child Assault Prevention(子どもへの暴力防止)

子どもがいじめ・虐待・痴漢などのさまざまな暴力から自分の心とからだを守ることを目的とする、おとなと子どもへの暴力防止のための予防教育プログラムです。

子どもの特別に大切な3つの権利

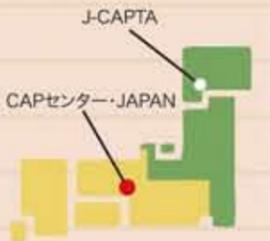
安心 自信 自由

もしも暴力にあつてこの特別に大切な3つの権利が奪われそうになったら何ができるかを教職員、保護者、地域のおとな、そして子どもと共に考えていきます。1978年にアメリカオハイオ州で誕生したこのプログラムは、日本では1995年から養成講座がスタートし、これまでに470万人以上のおとなと子どもがプログラムに参加しています。

CAPプログラムを実践する CAPスペシャリストになるには…

CAPセンター・JAPANはCAPプログラムに関するすべての権限を持つCAP(International Center for Assault Prevention)から認可を受けたCAPトレーニングセンターです。(北部エリアトレーニングセンターはJ-CAPTA)

CAPセンター・JAPANが管轄するエリア(32都府県)でCAPプログラム実践活動を希望する場合は、「子どもへの暴力防止のための基礎講座」を受講修了後、CAPスペシャリスト養成講座(3日間24時間)をご受講いただく必要があります。



詳細はこちらをご覧ください。http://cap-j.net/seminar/yousei_new.html

1st day 子どもへの暴力の共通認識を持ち、子どもを捉え直すことに重点を置いています。また、子どもへの暴力防止に欠かせない「子どもの人権」、「エンパワメント」について深く学びます。

講座(1) 知っておくべき子どもへの暴力に関する基礎知識を学ぶ

- ① 子どもへの暴力の概観
- ② 子どもと暴力
- ③ 子ども虐待の分類

講座(2) 防止教育の思想と理念を学ぶ

- ① 子ども虐待対応の歴史
- ② 日本における子ども虐待問題に関する法律
- ③ 子ども虐待問題に関わる分野
- ④ 第1次予防分野のCAPの哲学と3つのアプローチ

講座(3) 子どもの視点に立つ

- ① 子どもの人権について考える
一人権意識を育む大切さ
- ② エンパワメント

2nd day 社会への根拠のない信頼の基盤となるアタッチメント形成とそれを阻害するものとしてのドメスティック・バイオレンス、さらに性的虐待の構造などについて共通理解を持ちます。

講座(4) 模擬体験 CAP子どもワークショップ

講座(5) 子どもの視点に立つ(2) アタッチメント

講座(6) ドメスティック・バイオレンスと子どもとの関わりを学ぶ

講座(7) 子どもはなぜ暴力の被害にあいやすいのか

- ① フェミニストによる分析
- ② 神話と事実
- ③ 沈黙の役割

講座(8) 子どもへの性的虐待

- ① 性的虐待の4つの前提条件
- ② 性的虐待順応症候群

3rd day ここまで学んできたことをドキュメンタリービデオを通して、深めます。また、子どもの危機にどう応えていくのか、参加者が子どもへの暴力防止のために日常生活でできることを発見していく一日です。

講座(9) ビデオで学ぶ虐待を受けた子どもの心理「沈黙を破って」

講座(10) 子どもへの暴力におけるおとなの果たす役割

- ① 危機にある子どもに伝えるために
- ② 子どもへのエンパワメント
- ③ 第一予防分野であるCAPが行う子どもワークショップ直後のトークタイム
- ④ 子どもへのエンパワメントのためにおとなのできること

講座(11) 子どもへの暴力防止のための基礎講座のまとめ